

< 特別講演会 >

平成 25 年度から実施される科研費の新細目について

主 催：日本数学会教育研究資金問題検討委員会

日 時：2012 年 3 月 27 日（火）12：00～13：00

場 所：東京理科大学神楽坂校舎 2 号館 3 階 231 教室

1. 講演会

講師：宮嶌和男氏（日本学術振興会学術システム研究センター・参与，金沢工業大・教授）

講演題目：「科研費等の日本学術振興会事業をもっと活用しよう！」

講演要旨：

我が国においては、教育による多様な人材育成と科学技術の推進に資する施策を未来への先行投資として位置づけ、将来の発展を期しています。おりしも第 4 次科学技術基本計画が策定され、科学技術関係経費の拡充が期待されているところです。日本学術振興会は、我が国の中核的学術支援機関として、研究者の目線にたって学術研究が円滑に推進できるよう種々の事業を行っています。具体的には、人文・社会科学から自然科学のあらゆる分野を対象として優れた独創的・先駆的な学術研究を支援する「科学研究費事業」、優れた若手研究者の養成・確保を図るための「特別研究員事業」、諸外国との学術の国際交流を推進するための「学術国際交流事業」、加えて、「大学改革の推進に資する事業」も行っています。「日本学術振興会賞」や天皇陛下からいただいた御下賜金をもとに平成 22 年度から発足した「日本学術振興会育志賞」等、次代を担う若手研究者の勉学、研究意欲を高める顕彰も行っています。これらの事業を円滑に遂行するため「学術システム研究センター」が設置されており、研究現場の声を反映しつつ公平・公正で透明性の高い審査評価システムの構築・制度改善に取り組んでいます。特に、科研費については、新しい学術研究分野への対応、応募のし易さと適切な審査の実現に資するべく、「H.25 から適用する系・分野・分科・細目表」の改定に関わっています。皆様に、本会事業を身近に感じていただけるよう、情報提供したく思っています。

2. 学術システム研究センター員からの説明

担当：松村昭孝氏（大阪大学・教授）

3. 質疑応答